



後來ノ目録ノ論
文四章
リセコトニ建言

426

127



114
A 4434
3



第四章

後表ノ目途ヲ論ス

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

蓋シ既往ノ事蹟ヲ歎息スルノ際猶ホ将来ニ樂
シムヘキノ一治法アリ是レ僅カニ數百萬ノ金
額ヲ浪費シテ空シク此ノ六ケ年ノ星霜ヲ經過
セシト雖モ尚外國ノ救援ヲ仰カスシテ其目的
ヲ果スニ足ルヘキ金銀ノ富饒アルニ據ル故ニ
之レ又現今日本ノ其景狀ヲ同フスル所ノ他國
ニ比スレバ則チ日本ハ其目的ヲ達スルニ於テ

飛騨

歳省

最モ容易ナリト謂フヘシ請フ之レヲ自信スル
 モ敢テ不可トセサルノ適證ヲ言ハン即今米利
 堅ニ於テモルモ人ノ例アリモルモン人ハ曾
 テ一物ヲモ死有スル無クシテ而シテ不毛ノ地
 ニ未曾有ノ最モ富饒且ツ繁盛ノ一國ヲ建リ然
 リ而シテ日本人ハ幸ヒニシテモルモン人等ヨ
 リモ朕肥ナル美國ヲ有シ其地位タル亦貿易ノ
 便益アリテ宇内何レノ國カ其之レニ優レルモ
 ノアランヤ蓋シ英國ト雖トモ亦恐ラクハ及ハ
 サルヘシ加之其人民ハ数千年間從順ニ慣レ且

ツ日本ハ孛漏生ト合衆國トヲ除クノ外一般ノ
 國々ヨリモ既ニ大概讀書ノカアリ之レヲ教導
 スル亦容易ナルヘシ但シ予ハ今日下新タル
 ノ道ニ進マントスルニ及ンテ蓋シ其歩ヲシテ
 遅緩セシムヘキ巨多ノ悲歎スヘキ過誤アルヲ
 知レリ然レ氏此過誤ハ巨多特種ノ情實アリテ
 之レヲ償フニ足ラン抑モ其過誤タルヤ千八百
 年代ノ弊政治ノ下ニアルノ際浸潤セシ習慣ノ
 由テ為ス所ニシテ其國體ノ闕典ニ関スル瑣々
 タリ即今現今着手セシ变革ニ從テ其心カモ亦

一變セサルヘカラサルナリ
 數百年間農夫ハ重税ヲ領主ニ課セラル、カ為
 メニ之レヲ苦ンフ漸次只其重税ニ供給スルト
 自己及ヒ家族ノ生計ニ必需ナル産物トヲ取ル
 ノ、ニシテ復タ敢テ他ニ米穀ノ稼穡ヲ為シ或
 ハ物産ノ製造ヲ管ムモノ無キニ至レリ是レ自
 然ノ情勢ナリト虽凡今ヤ租税減少シ勞力ヲ増
 加スルニ及テ一朝欠乏ノ諸物品ヲ充實スルノ
 術便アルヲ明ラカニ會得セシ忽チ憤然トシテ
 勉強カラ頭ハスヘシ何トナレハ從來擔負スル

所重キカ為メニ疲レテ睡眠ヲ生セシモノハ則
 チ其欠ヲ補フヘキノ便路開ケルニ及ンテ忽
 チ復タ振起スルハ必定ナレハナリ凡ソ日本人
 種ハ事業ヲナスニ方リテ能ク其勞ニ堪ヘ得ル
 一ハ既ニ古来ノ歴史ニ因テ昭々タリ旧將軍ノ
 宮殿及ヒ國中貴族ノ城地周圍ニ在ル濠溝ヲ穿
 チ或ヒハ築城構砦ノ用ニ供スル為メニ山岳ヲ
 經テ數百トシノ木石ヲ運輸スル等實ニ幾千無
 限ノ勞力ヲ要セサルヲ得ス徳川祖先ノ時代此
 工業ノ一部ヲシテ江戸ニ經營セシムルヤ日十

ラスシテ落成セシト云フヲ以テ其勞カラ想像スルヲ足レリ

當今ノ耕作方法ニ賴ラ僅カニ一「ブツセル」ノ麦ヲ豊熟セシムルニ要スルノ勞カト雖トモ猶^ホ英國或ハ米國ノ農夫等敢テ之レヲ能ク得ルモノ稀ナリ因テ若シ日本ノ農夫ヲシテ其勞カノ半ハヲ減シ其獲ル灰却ラ今日ニ三倍スルノ收穫ヲ得セシムルトキハ豈倏然トシテ之レニ從事スルヲ欲セサルモノアラシヤ

又我輩姑ラク此卑賤ナル農業上ノ論ヨリ轉シ

テ精巧ト知識トヲ要スル工業ノ事ヲ論ヤン例ヘハ玉工或ハ象牙彫ノ類ニ至リテハ米利堅ニ於ケル同業ノモノト虽^ホ氏猶^ホ躬^ホヲ其工ヲ競^ホニ難シト感服スルカ如キ精巧ヲ極メリ

日本人ハ實際經驗ノ間其發明ノ性質ニ乏シトノ批判アレ氏敢ラ然ラサルナリ但二千年間諸營業上其技術進步ノ度ヲ嚴制シ苟クモ之レニ越ユルヲ許サス若シ其之レヲ犯スモノハ嚴罰ニ處ヤラルニ由ラ然ルノミ而シテ今日漸ク其二千年間ノ弊習ヲ脱シタルノ日猶^ホ淺キ死ニ

アル人民タルヲ以テ其天稟ノ技術ヲ進歩スル
 ヲ保有セザリシモ亦タ敢テ怪シムニ足ラサル
 ナリ將軍政治ノ下ニ在テハ猶現今支那ニ於テ
 之レヲ想像スルカ如ク帝ニ諸般ノ發明ヲ以テ
 一種ノ罪科ト識認スルノミナラス斯クノ如キ
 風習ニ因テ人民ヲシテ傳來ノ旧制ヲ墨守スル
 ニ至ラシム尋テ之レカ為メニ各人統テ孤立ノ
 氣勢ヲ失ハサルヲ得ズ其風習ノ勢力遂ニ人
 民ノ本質ヲ變更スルニ至レリ然レ氏他日心ス
 今日ノ氣力ニ及シ其反對スル所ノ勢却テ強ク

終ニ其結果ヲ顯ハスニ及ンテハ人民自ラ發明
 カアリテ物品ノ精巧ヲ極ムル曾テ我輩ノ意表
 ニ出ツル尚^ホ幾層ノ高ヲ加フヘシ是レ我輩刮目
 シテ他日ニ見ルヘキノミ然リト虽氏若シ其進
 歩ノ度益^ク迅カニ愈^ク極度ニ至ラントスル時ハ則
 チ三カ建白第四十八號ニ記載セル旨趣ニ基ツ
 キ宜シク良法ヲ設ケテ以テ其進歩ノ度ヲ適宜
 ニ制限スヘキナリ抑予カ此謂適宜ニ之レヲ制
 限スヘシトノ意ハ則チ富國ノ物産ヲ闕キ之レ
 ヲ富饒ニセン事ハ固ヨリ現今日本ノ為メ須要

ナリト雖凡未タ敢テ其富饒ノ極度増進スルヲ望マサレハナリ想フニ日本ハ英國ノ有スル如キ富ヲ得ルニ於テ蓋シ其幸福アラシヨリハ却テ災害多カルヘシ夫レ東洋ノ國ハ曾テ要用品ニ欠乏無キノ一ノ富アリ之レヲ西洋各國ノ躬ラカメテ無限ノ欠乏品ヲ購求シテ以テ漸ク満足スルモノニ比スレハ其富實ニ羨ムヘキナリ故ニ歐羅巴及ヒ米利堅ノ交際学ニ於テハ欠乏品ヲ購求スル客位ノ方法ヲ講シ亞細亞諸國ノ交際学ニ於テハ之レヲ賣與ス主立ノ道ヲ明

カニセサルヘカラサルナリ蓋シ今日本有スル所ノモノハ所謂主位ノ富ナリ而シテ今日本ニ於テハ之レヲ所謂客位ノモノ、為メニ投却セントスルハ怪シムヘキナリ凡ソ農工商繁盛スルニ由テ得ル所ノ富ハ衰亡スヘシト虽凡要用品ヲ節限スルニ由テ来ル所ノ富ハ未タ曾テ衰亡スルモノアラズ此節限ヲ以テ樂シムノ國ハ正經及ヒ理学ノ本質ヲ失ハスト虽凡若シ繁盛ヲ度外有スル國ハ礼理ノ性質相共ニ保有スルヲ得ナルノミナラス國民柔弱シラ且ツ

衰亡ニ階入り終ニ他國ニ併呑セラレ、ニ至ラ
 ン然ラサレバ或ハ分裂シ或ハ他國ニ征御セラ
 レ各其死体ヲ失ラ滅亡スルノミ其例亦太古未
 諸大國ノ歴史ヲ以テ徵スヘシ而シテ将来尚數
 年ヲ出テスシテ今日現在スル歐羅巴國民ノ中
 ニ於テ亦夫ノ歴史ノ同轍ヲ踏ントスルノ國ア
 リ伊斯巴尼亞、葡萄牙、澳地利、土耳其及ヒ希臘、國
 ノ如キ是レナリ其他ハ記載スルニ遑アラス是
 レ皆往古ハ我國ト殆ント匹敵スヘキノ大國ナ
 リシモ唯僅カニ數十年ヲ俟タスシテ滅亡ニ至

ヘシ是レニ由テ之レヲ考フレハ國民ノ形状止
 ムヲ得サルニヨリ一般ノ修整ヲ要スルカ或
 ハ今日電信、鑛道、甲鑛鑑、其他軍事ニ用フル堅硬
 ナル機械ヲ使用スルノ時ニ際シ其獨立ヲ保存
 シ或ハ命運ヲ全フヤンカ為メ必ラス富有ノ債
 財ニ費スヲ要スルノ勢ニ及フニアラサレハ日
 本ノ今日有スル所ノモノヨリモ復タ敢テ過分
 ノ富饒ヲ企テント着目スルハ欲セサル所ナリ
 然レバ若シ當國ヲシテ必ラス富強ナラシメサ
 ルヲ得サレハ則チ及令歐羅巴及ヒ英利堅人ノ

微笑ヲ受ルトモ今日真ニ必需トスルモノヲ購
 求スルノ間夕ニ於テ無量ノ財ヲ失ハナルヲ以
 テ第一着ノ眼目トナスヘシ
 此眼目ヲ達セン、欲セハ宜シク東洋聖賢ノ金
 言ヲ以テ當國ノ軌範ト為スベシ即チ謂ラク國
 内各人ノ勉カラ舉テ巧ミニシレヲ用ヒ其人ヲ
 シテ有益ノ業ニ従ハシムベシ而シテ人民各自
 須要ノ物品ニ足ル時ハ人民ノ間夕平穩ニシテ
 且ツ幸福ヲ樂ムニ到ルヘシト
 此語タルヤ歐羅巴及ヒ米利堅ノ最高名ナル保

護稅說家ニ於テモ亦常々之レヲ説ク今共一例
 ヲ掲テ以テ之レヲ判然タラシムヘシ
 第二章ニ掲ケタル茶園ヲ以テ産業トナス茶園
 主ノ意匠ヲ考フヘシ其使役スル雇人ノ衣類破
 損スレハ之レヲ引替ヘサルヲ得ス此時ニ當テ
 之レヲ新調スルニツノ方法アリ一ハ之レヲ
 自己ニ製造シ一ハ常々茶ヲ販賣スル場所ニ於
 テ之レヲ購求スルノニツナリ總テ茶ヲ摘収シ
 終リテ最後ノ荷高ヲ賣拂ヒシ後ハ翌年ノ用意
 ヲ為サ、ルヘカラス此時茶園主ハ其茶畑ニ使

役スルノ雇人ニ着用セシメンカ為ノ凡ソ二百
ヤルトノ木綿ヲ要スルモノト豫算スル時ニ方
ラ己ニ茶園主ハ充分ノ閑暇アルノミナラス其
雇人等モ亦夕雨ニ多キカ為メニ外出シテ職業
ヲ営スニ難シ是ヲ以テ若シ茶園内ニ於テ自ラ
木綿ヲ産出セハ則チ其代價三十弗トナル是レ
茶園内ニ産出セシ匹ノ生綿ヲ其地ノ市場ニ賣
捌クトキハ代價十弗ヲ得ヘキモノトシ又之レ
ニ自己ト其雇人ノ費ス時間ノ代價ヲ二十弗ト
シテ豫算セシニ因ルナリ而シテ英國ヨリ輸入

セシ木綿ヲ市店ヨリ購求セハ其價ニ二十五弗
ヲ以テ之レヲ得ヘシト雖モ茶園主及ヒ雇人等
ハ空シク怠惰ニ時日ヲ費シ職業繁劇ノ時ト等
シク飲食ニ加フルニ又雇人等ニ當然ノ給料ヲ
拂フカ為メニ若シ茶園主ハ市店ヨリ木綿ヲ購
求スル事無ク自ラ之レヲ作ラント決スル時ハ
眼前市店ヨリ購求スルノ木綿代價ヨリモ現在
五弗ノ余分ヲ拂フニ似タレモ實際ニ於テ八十
五弗ノ俟約ヲ生スルナリ何トナレハ茶園主之
レヲ市店ヨリ買ヒ入ル、時ハ現品ノ價ニ二十

五弗ノ外ニ全人及々其雇人ノ浪費ニシ時日ノ
 價ニ等即チ二十弗ヲ合計セハ四十五弗ノ價ニ
 トナル若シ之レヲ自己ニ産出スル時ハ生綿
 價ニ十弗ト自己ニ雇人ノ費消セシ時間ノ價
 ニ二十弗トヲ合シテ通計全ク三十弗ノ代價ニ
 過キサレハナリ其他総テ茶園主ノ要需スル諸
 物品ト虽トモ亦畧此例ヲ推シテ知ルヘキノミ
 獨リ此茶園主ノミナラス亦以テ全國ノ經濟ヲ
 示スニ足レリ何ントナレハ各國トモニ首一人
 一己ノ如ク必ス勞カノ餘剩若干アレモノナレ

ハナリ而シテ其餘剩ノ勞カラ用ニ土産物ヲ轉
 シテ各種ノ製造物ニ為ス時ハ仮令其工業ニ
 費シタル勞カノ功績ハ他ノ經驗便益アリテ精
 巧ヲ極メメル国ニ於ケルヨリ多カラサルモ猶
 且ソ大ニ國家ノ經濟ニ補益スヘシ故ニ佛蘭西
 合衆國、魯西亞國、日耳曼國、其他各國ニ於テハ自
 國ノ製造ニ係ルモノヨリモ下廉ニ英國ヨリ輸
 入スルヲ得ルト虽ハ尚其自國ニ生スル所ノ土
 産物ニ以テ自國ノ費消スル所ノ物品ニ製造ス
 而シテ此ノ國々ノ政府ハ英國ニ對シテ謂ラク

我国ハ自國ニ於テ製造シ得ヘキモノハ敢テ貴
 國ヨリ購求スルヲ欲セス若シ然ラサルトキハ
 空シク我カ時間ヲ失フニ至ルベシト
 夫レ斯クノ如キ斗路ヲ取ルニ及ンテハ茶園主
 ノ如ク一國ノ民ニシテ猶ホ他ニ不條理ヲ為サ
 ス自カラ國家ノ大害ヲ避クヘシ其農工ニ從事
 スルモ亦自國內ニ於テ天賦ノ妙エヲ實用シ且
 ツ其人民生活上必需ノ物品ヲ他國ニ仰カサル
 ノミナラス却テ他國ノ有セサル物産ヲ彼レニ
 輸出シテ以テ其國ノ要用ニ供シ又之レニ代フ

フルニ我カ要用トスルモノ物品ヲ輸入フルヲ
 得ルナリ苟クモ其輸出ノ物品輸入ニ超過ナル
 アレハ其差ハ金銀ヲ以テ其國內ニ入ルヘケレ
 ハ即チ之レヲ餘剰金トシテ除キ置クカ或ハ貿
 易ノ為メ自國內ニ於テ生セサル物品ヲ産出ス
 ルノ國ニ我國産ノ一部ヲ輸送スヘキモノ無キ
 ニ方リテ之レヲ購求スルノ代料トシテ此ノ金
 ヲ用ユヘシ凡ソ此方法ヲ用ヒテ既ニ農業ニ従
 事シ其物産ヲ興サントスルニ際シ果シテ勞カ
 欠乏ノ為メ困苦スルモノニアラナレハ則チ工

業ニ従事スルモノハ勿論其他土地ノ耕鋤ニ関
 セサル諸營業ヲ為スモノト虽凡一般人民ノ欠
 乏ヲ充タスニ足ルヘシ斯ノ如ク其人民生活
 為ノ海外ノ物産ノ仰カス殆ント獨立スルニ至
 レ、漸次其國ハ自ツカラ彼ノ夥シク他國ノ物
 品ヲ仰クノ國ヨリモ強勢ニ至ルハ必然ナリ試
 ミニ見ヨ英國ハ専ラ其製造物ヲ盛大ナラシメ
 而シテ其勞カラ天然ノ依テ歸屬スル農産工ニ
 用セサルカ為メニ其食用品ヲ他國ニ仰カカル
 ヲ得ス又其製造物賣捌キク為メ他國ニ市場ニ

仰カサルヲ得ス斯ノ如キ國ハ若シ一朝六ノ食
 用品ヲ仰キ且其製造品ヲ賣捌カントスルノ市
 場アル國トノ間ニ戦争起ルカ或ハ彼國ニ於
 テ将来一層智識ヲ開キ進ンテ國中自カラ製造
 物ヲ製出スルニ至ルトキハ此ノ國民ハ従前ノ
 望ミヲ失シ帝ニ饑渴ニ陥ルノミナラス俟セラ
 其富有ノ耗失セサルヲ得サルナリ
 總テ國民ノ得ント欲スルノ富福ハ其多寡ヲ論
 セズ直接ニ之ヲ自國ノ地ヨリ得ルカ或ハ間
 接ニ外國ノ地ヨリ得ヘキノミ故ニ直接間接ヲ

問ハス地ハ只人類日用ノ需要品即チ衣食住ノ如キモノ或ハ日用ノ必需ニアラサル瓦謂玩弄物等総テ諸品物ノ欠乏ヲ満足スル為メニ存スルノミ而シテ其需要品ト玩弄物ヲ満足セシモノヲ以テ富ト云フナリ

今其富ノ根源タル地ハ何物タルカヲ推考スルニ地ハ原ト天帝ノ時ヲ得テ芽ヲ出シ花ヲ開キ實ヲ結ハシメンカ為メニ日輪ニ向テ投シタル瓦ノ一粒ノ實種ヨリ生長セシモノナリ其形タルヤ初メ瓦斯状ニシテ而シテ後チ一部分ハ瓦

斯トナリ一部分ハ沸騰セル巨大ノ流動物ノ一塊トナリ又数百万年ヲ経テ漸々其表面堅硬ト成リシナリ是ヨリ先キ其瓦斯状タルノ項中間ニ含ミタル物體ハ后チ温度ノ下リタルニ依リ沈ミタル物質トナリテ其表面ヲ覆ヘリ而シテ后チ数回ノ大変化ヲ経テ但シ其中変化ヲ為スノ際三ヶ年半ニテ漸ク全完セシモノモ亦タ之レアリ其全體終ニ今日ノ形容ヲ為シ是ニ至リテ始テ草木禽獸及ヒ人類ノ生活スルノ適當ノモノト成レルナリ而シテ草木禽獸及ヒ人類

ノ食物ハ地球ノ表面ヲ覆フ所ノ土并其土ノ周
 圍ニアル空氣ヨリ之レヲ得ルナリ
 土ハ造物者ノ最後ニ作りタルモノ、一ニシテ
 之レヲ創造シヌ一ノ順序ハ今尚^ホ太平洋中屢見
 ル所ノ實景ヲ以テ顯然タリ太平洋中珊瑚質ノ
 如キ多脚物岩石ノ形體トナリ海面ニ表出スル
 ニ及ンテ風浪ノ為メニ各種ノ片塊即チ礦石質
 或ハ波浪ニテ破碎セシ多脚物質ノモノ(草本質
 及^チ動物ヲ持来シ以テ其地ヲ覆フナリ其流着
 セルモノ、中ニ種實アリテ自ラ其新タニ成生

セシ土中ニ埋リ以テ牙ヲ出シテ樹木トナリ其
 樹木ノ落葉腐朽シテ以テ又新土ヲ成スナリ其
 間鳥類ノ樹枝ニ止マツテ糞ヲ残スカ為メ其土
 ノ肥狀ヲ増加シ又草木ノ實ヲ結フカ為メニ新
 種ノ植物ヲ生シテ忽チ諸種ノ生長物増殖シ以
 テ不毛ノ岩石ヲ覆フナリ
 生長草木ノ礦石質ヨリ得ル所ノ滋養物ハ廣ニ
 其根ヲ經テ土ヨリ吸入スルノミナラス專ラ其
 葉ニ賴テ空氣ヲ吸入スルヲ以テ滋養トセリ然
 ラサレハ土ノ成長ハ樹根ノ届ル所ノ深ナニ停

ラサルヲ得ス然レ氏米利堅西部ノ大廣原中ニ
 厚サ六フットアルヲ見ルハ通常ノ事ニシテ
 其深サ絶ヘズ増加スルナリジヨーンズ氏ハ
 本ノ一部ニ於テニ土ノ深サ四十フットアル
 ヲ見タリト云ヘリ草木ノ主トスル滋養物ハ炭
 酸ナリ是レハ空氣原素中ノ一ニ居ル往古盛ニ
 地質學ヲ論スルノ時ハ其含ム炭過多ニシテ
 地球上只草木ノ生立スルヲ得タリ
 最初盛ニ繁茂セシ植物ノ生長ハ苔ノ類ニシ
 テ炭酸ヲ吸入シ實ニ驚クヘキ速度ヲ以テ生長

シ隨テ炭酸ノ大園トナリ無数ノ年間相壓迫レ
 種々ニ形體變化シタル後今日我輩ノ石炭ヲ稱
 スルモノト成リ之レヲ薪トシテ燃スカ改ニ一
 回固結セシ所ノ炭酸ノ小部分ハ再々空氣中ニ
 還ヘリ之レニ因テ數百年前一旦盛ニナリシ物
 質ヨリ又新タニ今日ノ植物ニ滋養物ヲ與フル
 ナリ故ニ地球上ニ於テ貴消セシモノ或ハ衰亡
 セシモノハ總テ何品ヲ論セス未タ曾テ空シク
 消滅スルモノアラザルナリ
 草木ノ枝葉ハ植物ノ為メ口ト肺トヲ代用スル

モノニシテ最モ吸入ノカラ有シ空氣中ノ炭酸
 ノ吞込之レヲ其筋線ニ流通セシムルナリ故ニ
 初夏樹葉ヲ悉ク伐取ルハ其樹木ノ呼吸ヲ止
 且ツ之レヲ饑渴ニシメテ枯ラスナリ
 草木ハ大氣ノ無尽藏ヨリ其滋養物ヲ受ケ而シ
 ラ其大氣ノ貯蓄ハ他ノ樹木ノ衰枯動物ノ吐浮
 及ヒ木枝ト焚物ノ費耗ヨリ之レカ欠乏ヲ補フ
 ナリ若シ草木枯ル、時ハ其吸入セシ炭酸ノ少
 分ハ再ヒ空氣中ニ戻ルト虽モ多分ハ却テ充ト
 少分ノ炭酸ヲ吸エタル土ニ歸シテ土地ニ肥沃

ヲ加フルナリ草木ノ大氣ヨリ受クル所ノ滋養
 物ノ割合ハ經驗上比較スル所ニ拠レバ即チ凡
 ソ十分中九分ナリ(三十八)
 故ニ地ノ豊饒ハ初メヨリ確定セシモノニアラ
 ス種々ノ事変ヲ經過シテ漸々數百年ノ間ヲニ
 之レヲ保存シ且今尚現ニ増進スルモノナリ造
 物主ハ人類ノ高^{*}方今ヨリ多クノ物産ヲ要需ス
 ルノ日豫備ヲ為スカ為メニ縱ヒ一區ノ地ノ豊
 饒ハ其濫用ニ依リ耗尽スルト虽モ又天然ニ之
 レヲ回復ニ復サシムル切妙アリ因テ東部ヲチルチ

ニヤニ於テ既ニ荒棄セシ煙草畑ニハ松樹繁茂
 シ其長クシテ木液ノ多分ナル根ヲシテ己ニ豊
 肥ノ尽キタル地卒ヨリ下ニ到ラシメ以テ礦物
 質ヲ上面ニ吸出セシムルナリ斯ノ如ク造物者
 ハ回復ノ方便ヲ施行シテ之レヲ丁子ノ培養人
 ニ與フルナリ丁子ハ其根菱ヲ張ルテ礦物ニ密
 着スル疾ハ泥土ニ到リ而シテ其礦物質ノミヲ
 以テ滋養物ト為ス一種固有ノ質アルモノナリ
 子前キニ述ルカ如ク土ハ礦物ト植物トノ混交
 セシモノニシテ草木ノ中ニハ必ス砂ノ類ヲ顯

出スルモノナリ而シテ麦畑一アツクル毎ニ砂
 九十三ポントヨリ百五十ポントヲ含ム此礦物
 質ヲ含ムノ量ハ菓實或ハ種子ニ少ナク一ラ樹
 木ニ乾ニ柳カ多シ而シテ專ラ樹葉ニ夥シ此ノ
 樹葉ハ直チニ土ニ歸スルカ或ハ畜類ノ滋養物
 トナリタルノ后チ土ニ歸スルモノニシテ其礦
 質ヲ含ム所ノ量ハ幹ヨリモ多キテ十五倍ナリ
 人類ノ愚鈍ニ因テ正然ノ最モ有益ナル功妙ヲ
 シテ鳥有ニ歸セシムルテ之レアリ夫レ天然タ
 ルモノハ常ニ肥富ヲ永久ニ保存シ倍々之レヲ増

殖ヤントスル自然ノ勢ニアリ然ルヲ之レニ反
 對シテ其土ノ肥豊ヲ衰荒セシムルコトアリ此レ
 曾テ收穫物ノ肥料ト轉換ノ耕法トニ注意セシ
 ルカ為メニ常ニ草木ハ其土地ノ元素ヲ奪去シ
 復タ之レヲシテ本ニ歸セシメサルニ職由セリ
 凡ソ一般ノ草木ハ自然其包含スヘキ原素ノ中
 ニ就テ若シ其一種ヲ欠ク時ハ則チ諸種ノ原素
 ヲ欠キタルモノト等シク其生長ヲ妨害ス蓋シ
 牧草ヲ地ヨリ採取ルトキハ十四トン毎ニ布打
 沙ニ樽石灰ニ樽曾達一樽綠礬一車磷酸一大宛

及ニ他ノ性質ヲ含メル成分ヲ取り去ルヘシ
 鳥獸ノ為メニ滋養物ト成リタル物質ヲ土地ノ
 肥料ヲ補フニ最モ貴重スヘキモノナリ其物質
 ハ則チ胃巾ノ管道ヲ經テ細密ノ部子ニ消化シ
 且フ其鳥獸ノ空氣ヨリ吸收セシ諸種ノ物質ハ
 結成シテ最良ナル肥料ヲ殖スノミナラス其食
 物ニ依テ生スル所ノモノヨリモ最モ窒素質ノ
 多量ヲ含ム英國中或ル州郡ニ於テハ只肥料ヲ
 得ンカ為メ油粕及ニ他ノ高價ナル食物ヲ以テ
 家畜ヲ飼養スル所アリ既ニランカシール州ノ

一郡ハ此ノ方法ヲ用テラ其荒蕪ヤシク恢復
 シ最モ豊饒ノ地ト為セノ故ニ若シ農夫其土地
 ノ物産ヲシテ其田畑ノ近隣ニ於テ費消セシム
 ル時ハ則チ直チニ其地味ノ膏腴ヲ回復シ而シ
 テ從來ヨリモ其肥ヲ増加スルヲ得ヘシト雖ハ
 其物産ヲシテ格外遠隔ノ地則チ外國ニ輸送シ
 テ之レヲ費消セシムルトキハ其地ノ膏腴全ク
 断絶スルニ至ラサルトモ旧地土質ヲ回復スル
 ニ充ツルノ力大ニ減少スヘシ故ニ後令從來富
 饒ノ土地ト雖トモ若シ地主ニ於テ其物産ヲシ

テ海陸ヲ經テ遠國ナル市場ニ輸送セシムルヲ
 常産トスル時ハ其豊饒ノ地味ヲ永ク保存スル
 事能ハサルナリ既ニ「シ」島ノ事蹟亦タ以
 テ之レヲ證スルニ足レリ抑該島ハ羅馬ノ時ニ
 當リテ一時伊多里國ノ穀倉ト稱シ其穀ヲ産ス
 ル巨額ナリシガ荏苒今日ニ及ンテハ終ニ其地
 ノ生産力耗尽シ復タ出産スルモアルトナシ
 生産力ニ適當シテ土地ヲ回復スル肥料ノ功用
 ト妙カトテ兩全スルノ説ハ未タ充分ノ証アリ
 ス何ントナレバ我國大市ノ下水及ビ江河ヲ經

ヲ培養ノ物質夥シク流出シ海中ニ入テ悉ク之
 ヲ失フモノアレハナリ開化國ノ内獨リ支那
 及ヒ白耳義國ハ今日前件ノ肝要ナルニ充分着
 眼スルノ國ト云フベキノミ然レ氏英國ニ於テ
 ハ之レニ及スルノ説アリ

前條ノ如キ事件ヲ統管改良スルハ即チ政府權
 内ノ當然ニ歸スヘキモノニシテ人民私會ノ如
 キハ常々利慾ニ惑溺シ淺見ナルニ由リ國家ノ
 持主タル政府ニ於テ其遠謀無キ人民ハ肥料ノ
 耗費ヲ保護スルニ充分ノ條理アリ蓋シ人民ヲ

シテ常ニ農工相隣居セシメ田畑ヨリ適宜ノ距
 里間内ニ於テ其收穫物ヲ消費スヘキノ方法猶
 ホ未ダ設立セサルノ間ハ前件ノ保護ハ國家政
 治上ノ論ニ涉ラサルヲ得ス故ニ其物産ヲ輸出
 スルヲ以テ前項ニ述タルカ如キ危害アリトナ
 ス時ハ國家獨リ其物産巨額ノ輸出ヲシテ税則
 ニ依ラシメ之レヲ防止スルヲ得ヘシ國家此ノ
 処分ヲ施スニ當ツテ決シテ他人ノ營業ヲ妨害
 スルヲナラズ却テ之レニ反對スルノ結果ヲ顯ス
 モノナリ

若シ政府直接ニ農工商ノ業ニ関係セスシテ輸
 出入物品相當ノ税則ヲ設ケ其他一般ノ方法ヲ
 設立スルニ当テハ(但シ政府ニ於テ人民ノ營業
 ニ直接スルハ最モ望マシカラサル事ナリ)其制
 限内ニ就テ人民ノ自由ニ任セ其欲スル所ニ從
 テ商業ヲ營マシムレハ則チ必ス繁昌シ決シテ
 衰微ヲ来メス事無キハ予カ現ニ各國ニ於テ見
 聞タル如クニシテ物貨ノ出入ハ政府ノ制限ニ從
 テ其度ニ届リ止マルナリ
 然レモ遠望ナクシテ大ニ農業ヲ盛隆ニ為スコ

リ生スル所ノ弊害モ又之レニ反對ナル方位ヨ
 リ起リ来ル所ノ災害アリ故ニ概シテ之レヲ言
 ヘハ農産ハ農夫只自ラ其需用スル所ノ食料ヲ
 産スルノミナラス其他ニ多分ノ余剩ヲ産出セ
 タルヘカラス若シ然ラサレハ全國ノ人民悉ク
 農業ニ従事セタルヲ得スト雖モ現今農家ハ自
 己ノ必需スルモノヨリモ却テ余剩ノ物産ヲ出
 スカ故ニ他ノ数万人各自ラ農事ニ関スルヲ免
 レ而シテ農産ノ外ニ人民ノ必需トスル物品或
 ハ玩弄物ノ製造ニ従事スルヲ得ル即チ製造人

高賈學術者及々其從僕等是レナリ夫レ農産ニ
 関ラスシテ他ノ營業ヲ為スモノト農家トノ間
 タニ交換ノ方法ヲ立テ彼我ノ欠乏品ヲ充分供
 用スルハ農工高ノ人民各自其平均ヲ得ルト謂
 フヘシ若シ此平均ヲ保存セス又其物債ヲ海外
 ニ輸出スルノ市場アラサルニ於テハ國民需用
 スルヨリモ過分ニ製出セシ所ノ人民自ラ其困
 難ヲ受ケサルヲ得スコトニ一種特別ノモノニ
 シテ只或ル國ニノミ限り生スル所ノ材木、砂糖、
 酒、加非、茶及々其他異種ノモノ、如キテ例外又

又ト雖トモ其他ノ農産ニ至テハ既ニ我輩カ前
 項ニ陳述セシ如ク之レカ巨額ノ輸出スルハ最
 モ此マシカラサルナリ是レ所謂ル土地ノ生産
 カヲ減スルノミナラス又其輸出ヲシテ永久ニ
 保存セシムル能ハズ又僅カニ外國ノ市場ヲ仰
 ヲ所ノ貨物ノ輸出ハ唯一時罕レニ人口稠密ノ
 國ニ於テ猶ホ未タ其設置ノ宜シキヲ得サルノ
 間タニ限ルモノナレハナリ一朝其國ニ於テ保
 護税則ヲ設ケ自國ノ欠乏品ヲ辨用スルニ及シ
 テハ從來他國ノ市場ヲ仰イテ大ニ製造物ヲ盛

隆シタル國ノ製造場、忽チ衰微シ其製造ニ服
 事セシ厥ノ雇人等多ク之レカ為メ窮乏シ生活
 ノ道ヲ計ラシカ為メ止ムヲ得ス復タ耕作ノ業
 ニ歸セサルヲ得ズ尋テ從來常ニ外国ヨリ購求
 シタル厥ノ食料物モ亦自ラ之レヲ産出セサル
 ヲ得サルニ至ルヘシ又々輸出ヲ目的トシテ農
 産ヲ不適當ニ盛大ニ為シタル國ハ其外国ノ市
 場ヲ失フタルカ為メニ前ノ製造ヲ專ラトセシ
 國ト相對シテ其困難ト損失ヲ受ケサハラ得サ
 ルナリ即チ米利堅合衆國是レナリ合衆國ハ土

地廣大ニシテ且ツ其地價甚々下廉ナルガ故ニ
 其産出ノ穀物ヲシテ英國ニ輸出セシタルノ目
 途、以テ農業ニ従事スルモノ實ニ其當ヲ過
 テ救多ナリ西部六州ニ於テハ生活ノ為メ管業
 ヲ為スモノ五割四分ハ悉ク皆十農家ナリ而シ
 南部諸州ノ内ニ於テハ其割合七割五分ニ至ル
 己ニ千八百七十二年中英國ニ於テ米利堅ノ麵
 粉ヲ需要スルノ高其平均ヲ越ヘラ多量ナリシ
 時ニ方リ獨リイールノア州ニ於テ其自國人民
 ノ要需ト勿論將來十五年間英國全國人民ノ需

要ニ充ツルニ足ルヘキ穀高ヲ産出セルニ因リ
 テ該國種々敢テ之レヲ他ヨリ購入スルノ人無
 キヲ以テ止ムヲ得ス米國ニ於テハ其産物ヲ焚
 物ニ用ユルノ形勢ニ至リ始メテ農業ニ従事ス
 ルモノ實際其分ニ過キ又製造ニ就クモノ甚メ
 過少ナルノ議論起リ終ニ穀物ノ産出ヲ制限ス
 ルニ至リ是レ畢竟國家ノ大損失ニシテ獨リ農
 家ノ損失ノミナラス兩三年間植付ヲ停止セサ
 ルヲ得サルニ至リ地面ノ開墾ニ費シタル資本
 金ニ係ル利銀ノ大損失トナレリ故ニ是ニ謹鎮

ナル教威ニ據レハ常ニ倉廩中余剩ヲ有シ之レ
 ヲ凶年カ或ハ之レカ不足ヲ生メタル外國ノ需
 要ニ應ジ得ヘキノ量ヲ貯蓄スルヲ適度トシテ
 農産ヲ制限スルヲ以テ良策トス斯ノ如キノ餘
 剩高ハ其輸出ヲ為ス國ニ格別ノ害ヲ為ス事無
 ノ外國ノ市場ニ於テモ亦常ニ良價ヲ得ルモノ
 ナリ此等ノ經濟法ニ於ルヤ日本ハ開港ノ日猶
 浅キカ為メニ百事之レヲ他國ヨリ習得セサル
 ハナラス而シテ前件ノ如キハ政府ヨリ直チ
 人民ニ教諭スルヲ得ナルナリ何トナレハ輸出

入ノ税則ヲ以テ之レヲ制限スルヲ除クノ外他
 ニ斯クノ如キ制限ヲ設立スルニ國律ヲ以テス
 ルトキハ蓋シ利益アランヨリハ寧口損害多カ
 ルヘシ故ニ該事ハ人民ノ自ラ制限スル所ニ任
 セナルベカラズ且ツ農工商ノ諸業中各其宜キ
 ラ撰シテ從事スルモ亦人民ノ自由ニ任セサル
 ヘカラス然レテ此等ノ事情ハ歐羅巴未利堅ニ於
 テ五十年既往ノ履歷ニ就テ之レヲ参考セハ則
 チ自ラ日本人民ノ為メ大ニ悟得スル所ナラズ
 シ歐米ニ於テ此ノ年間ニ發明スル所モ少

シトセス請フ其概畧ヲ述レモ抗キ器械○紡糸
 及ヒ織物器械○木挽彫刻、及ヒ金屬、皮革他ノ物
 品ヲ細ニスル器械○耕鋤、收穫及ヒ精製ノ器械
 ○鉄道、蒸氣船、電信機、寫真等是レナリ 總ラ此等ノ
 發明ヨリ農工商ニ從事スルノ面目ヲ一變セリ抑、此發明ハ
 大ニ吾械ヲ用ユル勤勞ノ價ヲ減少スルト同時ニ人カラ
 用ユルノ工場ヲ増加シ尋テ製造物ノ需求モ亦増殖シ人
 類ノ為メ無量ノ便益ヲ與ヘリ加之此等ノ學術日々開
 フルニ從テ倍々知識ヲ廣メ終ニ大ニ窮理學ノ進歩ヲ
 致シ是レヲ以テ人類ノ頭腦中新タニ思考カヲ

増加セリ

然レ凡是等ノ事物ハ及令何程貴重スヘキモノ
 ナリトモ濫リニ之レヲ模形セントスルハ日本
 ノ為メ大ニ宜シカラズシテ却テ之レカ一事物
 モ有セサルヲ以テ益アリトナスベシ何トナ
 ハ最モ高尚ノ學問ト最モ精巧ノ製造トニ未熟
 ナリ手ヲ以テ之レヲ有スレハ常ニ過半ハ損害
 生ジ場キモノナレバナリ而シテ又未熟ノ手
 ヲ以テ之レヲ使用セントスル時ハ徒ニ其學術
 ノ經驗ヲ購フノ費用多クシテ之レヲ償フノ道

立サルノミナラス從テ大害ヲ醸スニ至リ却テ
 寧ロナキニ如カサルヲ屢ニ之レアリ然レ而シテ
 或レ之レヲ以テ國民ノ要用トスレ知識ヲ得テ
 其之レヲ適宜ニ用ユルノ方法ニ練磨スルニ至
 ルマテハ敢テ手ヲ下タスヘカラサルモノトナ
 スノ語ハ愚モ亦甚タシト云フヘシ何ントナレ
 ハ一代ニテ其目途ノ極ニ達スル能ハサレハ十
 リ故ニ予ハ合衆國既往ノ履歷ヲ以テ之レニ優
 レル適例獲タルベカラスト思考スレナリ
 抑合衆國ノ百年前ハ且本現今ノ如キ景況ニシ

テ唯人民ノ勉強智愛國心及ヒ土地ノ肥沃ナ
 ルヲ除クノ外他ニ富ト称スヘキモノ無シ然ル
 ニ物換リ星移リ手工漸ク器械トナリ走リタル
 モノニシテ當時其人民ニ於ケルヤ今日本ノ人
 民カ有スル所ノモノヨリモ別ニ多クノ便益ヲ
 有セシニハアラサリシナリ且ツ其顧問及ヒ先
 導者タルモノモ亦タ今ノ日本ニ於ルカ如ク一
 切シテ外國ニ倚ラサル無カリシナリ而シテ合
 衆國ノ其目途ヲ達セントスルニ當テハ今日本
 ニ對スルト等シク巨額ノ資本金ト雇傭ノ廉ナ

ルトニ抗對セサルヲ得サリシノミナラス其主
 トスル所ノ妨害モ亦タ等シキ方位即チ美國
 ノ如ク合衆國ハ其國益ヲ計ラカメ海外
 ヲノ精巧ノ農工ヲ感シニ徴集シ漸ク以テ筋ヲ
 精巧ヲ得タリ日本ニ於テモ同徴ヲ踏マサルヲ
 得ズ然ルニ今日日本人ハ曾テ植民ノ以テ合衆國
 ニ與ヘタルカ如キ便益ヲ有セサル事判然ナリ
 将来猶ホ數年間農工商ノ事業ニ於テ日本人ト西
 洋人トノ間タ互ニ自由ニ雜居スルヲ妨ク
 ノ柵門アリテ之ヒカ為メニ外國人等ヨリ

其人民中ニ精巧ト知識ヲ擴ムルノ障礙アルヘシ然レ氏此障礙ヲ以テ敢テ除却シカタキモノト為スヘカラス合衆國ニ於テハ植民ノ方法ヲ以テ今日ノ功績ヲ為スト虽トモ若シ其植民ノ便ナク人口ニ乏シキト太タシクシテ之レヲ要スル時ハ又他ノ方法ヲ以テ之レニ代ルノ策アルヘシ然ルニ今日日本ニ於テハ前件ノ如キ人口ニ乏シアル無シ仮令將來猶^ホ今日ヨリモ餘分ノ住民ヲ要シ且ツ歲月ヲ經ルニ随ニ漸々ニ増スヘシト虽トモ已ニ現今ニ必需トスル所ノ人

口ハ十分ニシテ日本ノ為メ植民ハ益アルヨリモ却テ其損大ナルヘシ日本ノ人民ハ既ニ農工高各種ノ技藝ニ於テ思知識ヲ有ス故ニ合衆國人民ノ往昔ニ於ルヨリモ尚^ホ速カニ西洋開明ノ技術ニ進歩スルニ易シ日本ニハ製糸人築造師銅工玉工彫刻師圖画師塗師彫像師其他巨多ノ職工アリ之レヲ合衆國ニ於テ最初僅カニ數十人ニ越ヘサル農夫ヲ有セシノ之ニシテ又其農業ニ至リテモ甚々拙ヲ極メタルモノニ比スレハ良地ヲ撰ミ谷所ニ教

ケ所ノ田畑ヲ開キニニケ所ノ製造所ヲ建築シ
一ニノ銀行ト貿易ノ高館トヲ設ケ總ラシヨ
ン氏カ作為スル所ノ田園ト等シキ方法ヲ以テ
萬事ヲ實行スル時ハ日本人民ハ数年ヲ出スシ
テ夫ノ富福ヲ産出スル西洋國民ト相競ラ倍進
歩シ其學術ノ知識ト精巧トヲ極ルニ至ルヘシ
然レ氏其外國ノ先導者ヲシラ只給料ヲ貪ルノ
人ハテシムヘカラス一^{モツ}ラジヨ^シン^ス氏カ^{ロク}
能ク其職掌ヲ守リ敢テ給料ヲ受取ルノミ^ニ
マラス躬ヲ奮テ擔任セシ所ノ諸^{モツロミ}始計ヲシテ其

實功ヲ奏セシムルヲ以テ素意トナサシメサル
ヘカラス斯ノ如キ人物ノ顧問アルニ及ビテ獨
ノ專事トスル所ハ必ス利益ヲ生^スヘキノ豫策
ヲ発見スレト其始計ニ関涉スルノ方法ヲ設置
スルトニ就テ日本人民ノ意匠ニ適スルヤ否ヤ
ニアルノミ
予前ニモ述ヘシカ如ク政府ハ此レ等ノ始^{モツロミ}計ノ
統領タル能ハサルヲ以テ此一事ハ今日シヨ
ン^ス氏ノ指揮ニ因テ作為スル所ノモノト差違
アルハキノミ然レトモ此ノ政府ニ於テ為シ能

ハサルノ一事ハ宜シク華士族ヲ以テ官名ヲ負
 ハシメス。單ニ平民即チ地主ノ位置ニ在テ之レ
 ラ企フヘキ事ヲ勸告ス。蓋シ日本ノ華士族ハ佛
 國「フランシス」王第一世及「ユイイス」王第十四
 世前ニ佛國華族ニ於ルカ如ク亦自ラ農ニ従事
 シ又其工事ニ於ケルヤ猶今日英國ノロルド族貴
 ニ於ルカ如キノ地位ヲ占メン事ヲ望ムナリ。且
 此日本ハ英國華族ト及シ其必需トシテ備馭ス
 ル派ノ外國人カ監督ニ頼テ現在擔負スルハ始
 計ヲ繁盛ナラシメンガ為メニ專ラ其時門ト意

匠トラ費ヤサ、ルヘカラス是ノ時ニ當テ日本
 ノ華士族ハ只其職掌ヲ異ニスルノミニテ其
 身分依然トシテ從來因襲ノ貴重ナル責任ヲ有
 スルニト謂フベシ

國家富饒ノ原種ヲ國內各派ニ播布センカ為メ
 ニ日本ノ華士族ハ外國製造物ノ濫入ヲ防護シ
 而シテ獨リ外國人カ貿易ノ權利ヲ專占スルヲ
 禦クヘシ。若シ外國人ラシテ貿易上專ラ賣買ノ
 權ヲ握ラシムルニ至ラハ物産ノ繁殖ヲ妨害シ
 國家ノ衰亡ヲ招クハ必定ナリ是ヲ以テ現今ノ

率士族タル者ハ恰ニ社古其祖先ノ勇猛ト等シ
 ノ膽力ナカリセハ外國ノ攻撃ヲ受ケ終ニ敗
 レヲ取リテ國家ヲシラ衰亡ニ至ラシムヘシ故
 ニ此一擧ニ就テ今日率士族ノ羨スヘキ功績ハ
 ハ蓋シ其祖先ノ戰場ニ於テ顯シタル勲功ト名
 譽相等シキノミナラス之レカ為メ國家挙テ感
 謝スル所トナラン此説ハ少シク強キニ過キ或
 ハ片議論工ノミノ事ニ似タリト云フト雖トモ
 能ク一般ノ情實ヲ熟慮スル時ハ亦敢テ此ノ説
 ノ証言ニアラサルヲ突見スヘシ凡ソ一國人民

ハ其生産スルモノヲ自國ニ於テ費消スルカ或
 ハ其物産ヲ輸出シテ海外ノ他品ト交換スルナ
 ン事ニシテ復タ之レヲ費消スルハ自國ニ生
 産スル量ヨリモ多カラシムラ欲スト雖氏能ハ
 サルハ克ク人ノ知ル所ナリト自ラ信ス是ヲ以
 テ永世困窮ニ生活スルヲ甘ンセサルモノハ須
 ラク其自國ノ生産力ヲ盛大ニセサルヘカラス
 然レ氏若シ爰ニ巨萬ノ富ヲ積ミ製造ニ精巧ヲ
 極メ航海ニ熟練ヲ経テ之レニ加フルニ其質善
 良品ノ其價下廉ノ物品ヲ生産スル隣國ノ債物

我々工業未だ精巧ニ至ラス又其財本限りアリ
 ラ其物品ヲ製出スルノ價ヲシテ廉ナラシムル
 能ハサルノ貨物トテ列ネテ共ニ一市場ニ輻湊
 セシムル時ハ豈ニ其自國ノ生産カラ盛大ニ為
 スノ期アルヘケンヤ故ニ斯ノ如キ景状ニ於テ
 ハ又々敢テ之レカ製造物ヲ勸懲スルノ機會ア
 ル事ナシ是時ニ方ツテ猶且ツ國內ノ製造ヲ起
 シン事ヲ要セハ則チ外國ノ競争ニ防キテ必ス
 保護税則ヲ設ケサルヘカラス若シ夫レ之レヲ
 設クルニ及ンテハ勉メテ製造ノカラシムル所々

進歩セシメ終ニ強隣ノ國ト其カラ平等ニ至
 ルマテ之レガ盛大ヲ期スヘシ而シテ其製造倍
 精巧ニ進ンテ充分ノカラ顯ハスルハ更ラニ實
 際注意シ隣國ノ物品ニ就テ其自然ト彼レノ廉
 ニ製出シ得ヘキノ證アルモノハ我カ國ニ於テ
 自ラ之レカ製造ヲ停止スルヲ以テ亦タ一ノ利
 益トナスヘシト雖トモ其時機ノ至ルマテハ保
 護ヲ要スルナリ例ヘハ佛國ヲシテ二十五年
 前ニ木綿ト鍍器ノ製造ヲ保護スルノ法則ヲ廢
 シヤンメハ現今「セイ」ル「エ」及「エルブ」

フノ地ニ連ル土地ノ物産ハ果シテ如何ソヤ又
 方今孛漏生ニ属スル「ソ」リヨ「ル」バ「イ」トモ
 ルオ「フ」及「ヒ」サイ「ン」エ「ク」エ「ン」ノ地ニ在テ年々
 繁殖スル所ノ人口ハ亦果シテ如何ソヤ必ス悉
 ク擧テ英國ノ「メ」ン「チ」子「ス」トル「ホ」ル「ミ」ン「ハ」ム「カ」ラ
 ス「ゴ」リ「及」ヒ「シ」フ「キ」ール「ト」ニ壓倒セサレ「セ」イ「ン」ノ
 地及ヒ其他佛國繁昌ノ市村ハ概テ不毛ノ地ト
 變シ佛國ノ為メ殆ント購求ノ力ヲ失フ「ハ」カリ
 シナリ而シテ英國ハ倍々繁榮ヲ極メ佛國ハ僅ニ
 葡萄酒生産ノ地方ヲ除クノ外製造品ニ從事ス

ル「死」ノ地ハ悉ク荒廢トナルヘカリシナリ然レ
 トモ佛國ハ豫メ此災害ヲ防クノ法則ヲ定メ止ス
 ハ「カ」ラサルノ阜見アリテ其以テ「セ」スヘキノ保
 護税則ニ「ヒ」テ國家ノ富饒ヲ致セシナリ而シテ
 曩年日耳曼ト戦争ノ以前ハ夫ノ富饒ヲ有セシ
 カ故ニ其税則ヲ改正シ其際自國ヨリモ廉價ニ
 製産スル物品ハ英國市場ニ就テ購求スル事ニ
 至レリ然レ氏戦争ノ以後ハ近來ノ損失ヲ補償
 スルヲ以テ必需ナリトシ復々其港ヲ鎖シ旧ニ
 依リ保護税則ヲ設ケ英國ヨリ購求スル事ヲ上

ノタリ故ニ予ハ以為ラク自由貿易ハ獨リ富強
 ノ國ニ於テ許シ得ヘキモノニシテ畢竟唯其繁
 盛ノ時間ニ行ハ、榮輝ノ一ノミ素ヨリ貧國ニ
 於テハ保護税則ヲ設クルヲ以テ最モ須要ナリ
 トス試ミニ看ヨ英國ト虽凡曾テ貧弱ナリシ時
 ハ等シク保護法ヲ用ヘリ而後其國富饒トナリ
 現今外國競争ノ患ニ無キヲ見テ初メテ自由貿
 易ヲ施行スルモノ、
 此書中ハ謂ル華士族ヲ鼓舞スル所ノ始計。一着
 手ニ於テハ必ス多少ノ災害及ニ危險ヲ冒サ、

ルヘカラス然レ氏此危險ヲ冒スヲ鑄錯スルハ
 猶兵士ノ怖レテ敵ニ背ヲ見ラル、カ如實ニ
 華士族ノ耻ツヘキ所ナリ故ニ若シ其事理ヲ説
 得スレトキハ則チ華士族ノ此新事業ヲ舉行ス
 ルヲ辞セサル事尠モ疑ヒラ答レサル所ナリ
 予試ミニ一千八百六十八年ノ復古以來百般變
 革ノ形勢ト國家ノ利益トヲ計較シテ之レヲ觀
 レハ即チ日本農工商ノ三業ヲ確實ニ改良スヘ
 キノ條理ト此ハ改正ノ功ヲ奏スルハ必ス其任
 獨リ華士族ニ歸スヘキ一説アルノミト信ス

故ニ今筆ヲ繼テ更ニ鮮明スル所ハ唯其目途ヲ
達セントスルハ際華士族ヲ勸励スヘキ始計^{モッロビ}ノ
巨細ト國家ノ保護ニ據ラ國家ノ經濟ニ裨益ス
ル如何トニアリ請フ其方法ヲ次編ニ陳述セン

